

3

環境学習プログラムの対象年齢と学習のねらい

学習者の発達段階を、幼少期、少年期、青年期、成人期、高齢期に分けると、環境学習の内容、分野等は、個人の発達段階に応じた「関心」「理解」「行動」へとつながる学習プログラムが必要です。

例えば、幼少期においては、人や自然とのふれあいを通じて環境への関心、守り育む心、豊かな感性を養うことが重要です。

このような対象年齢と環境学習のねらいを次の表に示します。

環境学習プログラムの対象年齢と学習のねらい

幼少期 (保育所、幼稚園、小学生低学年)	体験学習による自然とのふれあい、豊かな感性の醸成
少年期 (小学生高学年、中学生)	環境を守り、育む心の醸成、人と環境の関わりの認識、実践活動への参加
青年期 (高校生、大学生)	人と環境の関わりの認識、解決能力の醸成、責任ある行動力の養成
成人期	人と環境の関わりの認識、地域における実践活動への参加、青少年に対する指導
高齢期	地域における実践活動への参加、青少年に対する指導